

みなさ〜ん、しばらくぶりでした。
新聞を発行しようと思いつつ、別にサボッ
ていた訳ではないのですが、色々と診療室
以外の仕事もあり、原稿を書く暇がありま
せんでした。本当はネタ探しをしていたの
も事実・・・ペコリ！

私どもの診療室にきて頂き、治療が終わ
ると、**受付嬢**？が必ず、3ヶ月後に「**健診**」
のお電話を差し上げる旨を患者さんに伝
えると思います。これは、皆さんに健康に
ついて関心を持って貰いたいと思い、開院
してからずっと変わらずにやってきた
ことです。**健診**は今では当たり前のこと
になりましたよね！

ひと昔前は「**検診**」と書いていましたが、
今は「**健診**」と書きます。前者は健康を害
してから、の検査診断を意味し、私どもの
診療室に来ていただくことは、「**健康診
断**」、「**健康診査**」の意味から、「**健診**」と
いうことです。

私どもの診療室に健診に来ていただき、さ
て、佐藤はいったい何を見ているのだろう
か？むし歯のチェックだけ・・・？
いやいや、答えは

- 1：もちろん、むし歯の有無や歯の汚れ
- 2：不正咬合の有無
- 3：口腔粘膜の異常の有無
- 4：話など交わした際の発音の仕方
- 5：顔の対称性
- 6：顎のずれや音の有無

など、小児の成長発育が正常なのか、また
健康を害する所見はないかななどを診てい
ます。

問題がなければ、歯石除去や歯垢の清掃、
フッ素塗布し次回の**健診**へとなります。
保護者の方へのお願いがあります。
折角、専門医の所にいらっしゃっているの
ですから、大事なお子さんを「**お任せ**」診
療させていただくのは本当に有難いので
すが、心配事などありましたらどんどん聞
いていただくと有難いと思います。
では、本題に入り、今回は「**噛むと顎は本
当に大きくなるの？**」です。

前回、噛むことによって歯は直立してく
るという話をしました。確かに数多く噛むこ
とで、歯は直立してきますが、右の写真の
ような場合や、また、遺伝的な要素、骨格
の状態により臼歯部が起き上がらない場
合があります。この場合は外部からの力
(**矯正力**)を必要とします。

ではどの位起き上がるのかと言うと、距離
にして約1mm位と考えています。(正常
咬合の場合と比較して)ということは、歯
槽頂線上内側から外側に向かって1mm
左右で約2mm拡大できたら・・・

(半円だから)半径*2*3.14÷2 理論
上約3~4mmのスペースが確保できる
こととなります。これだけのスペースがで
ければ大概の前歯部のガタガタや臼歯部
の傾斜などは正常な状態にできます。

ですから、**正しい噛み合わせ**は不正咬合の
度合いや内臓などへの負担軽減、左右正し
く噛むことで顔が左右対称になり美しい
笑顔と体のバランスを手に入れます。
**硬い物ではなく、数多くそして左右バラ
ンスよく噛むことが重要なのです。**

下の写真および図は前号から引用

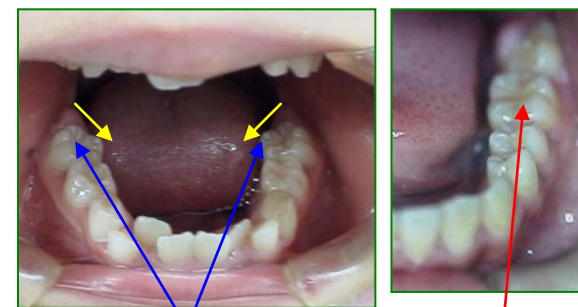
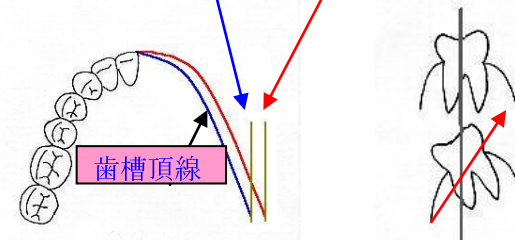


写真1 (舌側に倒れている) **写真2** (治療後)
上の写真1と写真2と見比べてわかるよ
うに、**青矢印**の第一大臼歯(6歳臼歯)が
舌側に倒れていることが確認できると思
います。
これは、歯列弓すなわち歯を並べているア
ーチを狭くしているということです。



で、写真1のような場合は正しく噛む位置
へ6歳臼歯を移動したことでアーチを大
きく出来た結果、**前歯の叢生**(そうせい)
(ガタガタの意味)を改善できました。

結 論

「**正しい噛み合わせ**」は上下の歯が歯槽頂
線上に正しく乗かって噛んでいる状態
をいいます。噛むことで顎が大きくなる
のではなく歯が正しい状態に起き上がる
というのが本当なのです。